

令和6年度

掛川市・袋井市病院企業団  
病院事業会計決算審査意見書

掛川市・袋井市病院企業団監査委員



掛袋病企監第1号  
令和7年6月25日

掛川市・袋井市病院企業団  
企業長 宮地正彦様

掛川市・袋井市病院企業団

監査委員 杉山 正

監査委員 久永 豊彦

令和6年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計  
決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和6年度掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算及び附属書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。



## 目 次

第 1	審査の対象	-----	1
第 2	審査の期間	-----	1
第 3	審査の方法	-----	1
第 4	審査の結果及び意見	-----	1
	1 審査の結果	-----	1
	2 審査の意見	-----	2
第 5	決算の概要	-----	3
	1 業務の執行状況	-----	3
	2 予算の執行状況	-----	6
	3 経営成績の状況	-----	9
	4 財政の状態	-----	16
	5 未処分利益剰余金の処理	-----	17
第 6	キャッシュ・フロー計算書	-----	18
第 7	参考資料（附表 1～3）	-----	20

### 注 記

- 1 金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満は百円単位を四捨五入したため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2 比率（％）は、原則として小数点以下第 2 位を四捨五入したため、構成比の合計と内訳の計が一致しない場合又は決算書その他の書類と一致しない場合がある。なお、99.95%～99.99%の場合は、99.9%と表示した。
- 3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - (1) マイナスは「△」と表示した。
  - (2) 該当数値のないものは「－」と表示した。
  - (3) 該当数値はあるが、単位未満のものは「0.0」と表示した。

# 令和6年度掛川市・袋井市病院企業団 病院事業会計決算審査意見

## 第1 審査の対象

令和6年度 掛川市・袋井市病院企業団病院事業会計決算

## 第2 審査の期間

令和7年5月21日から同年6月25日まで

## 第3 審査の方法

掛川市・袋井市病院企業団企業長から審査に付された決算書及び附属書類について、財務会計上の合計上の合規性の検証に加え、事務事業が経済的かつ効率的に執行されているか等に主眼を置き、通常実施すべき審査手続を実施した。

また、計数の確認、関係諸帳簿との照合等を行うとともに、関係職員の説明を聴取した。

## 第4 審査の結果及び意見

### 1 審査の結果

審査に付された当年度の決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、関係諸帳簿及び証拠書類といずれも符合し、適正であると認められた。

#### (1) 業務実績

1日平均入院患者数は、前年度比26.4人（6.8%）増の415.8人となり、病床利用率は、前年度比5.3ポイント増の83.2%となった。また、1日平均外来患者数は、前年度比1.9人増の1,156.3人となった。

患者1人当たりの診療単価は、入院が前年度比508円増の7万6,678円、外来が前年度比460円増の1万8,486円となった。主な増加要因は、診療報酬のプラス改定、手術件数の増加、がん患者に対する化学療法の増加等である。また、医師1人当たりの診療単価は、前年度比731円減の47万214円となった。

#### (2) 経営成績

医業収益は、入院・外来患者数の増加、診療報酬のプラス改定等により、前年度比10億2,044万9千円（6.0%）増の180億5,657万円となった。

一方、医業費用は、給料や手当、薬品費や委託料等の増加により、前年度比12億4,775万円（6.9%）増の194億1,152万4千円となった。その結果、医業損益は、13億5,495万4千円の損失となった。

経常損益は、収益198億3,907万7千円に対し、費用は204億3,736万2千円となり、経常損失は5億9,828万5千円となった。これに特別利益1,349万8千円を加え、過年度損益修正損による特別損失1,261万3千円を差し引いた当年度純損失は、5億9,740万円となり、当年度未処分利益剰余金は、40億9,878万2千円となった。なお、経常損失が生じた主な要因は、物価や人件費の高騰により、医業費用が増加したことである。

### (3) 財政状態

本年度末の資産合計は、前年度比4億5,656万8千円(1.8%)減の251億4,179万6千円となった。これは、主に現金預金等の減少によるものである。負債合計は、前年度比1億1,551万8千円(0.6%)増の195億4,438万2千円となった。うち企業債は、前年度比5億688万9千円の減で、未償還残高は129億2,050万1千円となった。資本合計は、当年度純損失の発生により、前年度比5億7,208万6千円減の55億9,741万3千円となった。

## 2 審査の意見

令和6年度は、稼働向上に向けた取組を実施した結果、1日当たりの平均患者数は、入院が415.8人、外来が1,156.3人となり、いずれも前年度から増加した。特に入院については、コロナ禍以前の水準まで回復し、病床利用率も83.2%と前年度を大きく上回り、取組の成果が明確に表れる形となった。

本年度の決算状況は、医業収益が前年度から約6.0%増加したものの、医業費用がそれを上回る約6.9%の増加となり、医業損失は前年度比2億2,730万1千円増の13億5,495万4千円となった。また、経常損益と純損益も前年度に引き続き、ともに赤字となった。人間ドックの受入拡充や料金設定の見直し、室料差額の算定率向上など、収支改善に向けた様々な取組の実施や診療報酬のプラス改定により医業収益は増加したが、物価や人件費の高騰による医業費用の増加が著しく、引き続き厳しい経営状況となった。

本年度は、稼働向上に向けた取組の実施により、12月以降は満床に近い状態が続き、院内は逼迫した状況であったと聞いた。医業収益は改善した反面、医師や看護師等の職員の労働環境の悪化につながる恐れが懸念されるため、適切な人員確保や新たに導入した勤怠管理システムを活用し、良好な労働環境の維持に努めていただきたい。

最後に、中東遠総合医療センターは、開院から12年が経過した。本年度からは新棟の建設工事が始まり、令和9年3月の竣工に向けて動き出した。また、令和6年10月には、がんゲノム医療連携病院の指定を受け、先進的ながん診療の実施が可能となった。今後も、医業収益の増加と経費節減により、病院経営の安定化を図り、黒字化を目指すとともに、より質の高い医療サービスを提供し、中東遠地域における基幹病院としての使命を果たされることを強く望む。

## 第5 決算の概要

### 1 業務の執行状況（第2条関係）

#### (1) 病床の利用状況

区 分	令和6年度	令和5年度	比較増減	令和5年度県平均
病 床 数 (床)	500	500	0	343
病 床 利 用 率 (%)	83.2	77.9	5.3	81.9
平均在院日数 (日)	9.3	9.1	0.2	15.1

(注)

- 1 病床数は500床、病床利用率は83.2%で、前年度から5.3ポイント増加した。増加要因は、稼働向上に向けた取組を強化し、入院患者数が増加したことによる。
- 2 平均在院日数は9.3日で、前年度から0.2日増加した。

#### (2) 患者数の状況

(単位：人、%)

区 分	令和6年度			令和5年度	増 減	
	当初予定数	補正後	実績 ①	実績 ②	①－②	伸び率
延べ入院患者数 (診療実日数)	151,475 (365日)	- (-日)	151,769 (365日)	142,528 (366日)	9,241 (△1日)	6.5
延べ外来患者数 (診療実日数)	279,450 (243日)	- (-日)	280,980 (243日)	280,514 (243日)	466 (0日)	0.2
一日平均入院患者数	415.0	-	415.8	389.4	26.4	6.8
一日平均外来患者数	1,150.0	-	1,156.3	1,154.4	1.9	0.2

(注)

- 1 延べ入院患者数は、前年度から9,241人増の151,769人となった。増加要因は、稼働向上に向けた取組を強化したこと等による。
- 2 延べ外来患者数は、前年度から466人増の280,980人となった。
- 3 患者数の多い診療科は、入院では、循環器内科19,843人、整形外科19,128人、外科15,168人、外来では、内科41,025人、整形外科20,328人、外科19,335人であった。
- 4 患者数が増加した主な診療科は、入院では、消化器内科、脳神経外科及び呼吸器内科で、外来では、消化器内科、救急科及びリハビリテーション科であった。

(参考資料)

地域別延べ患者数 (入院・外来)

入 院

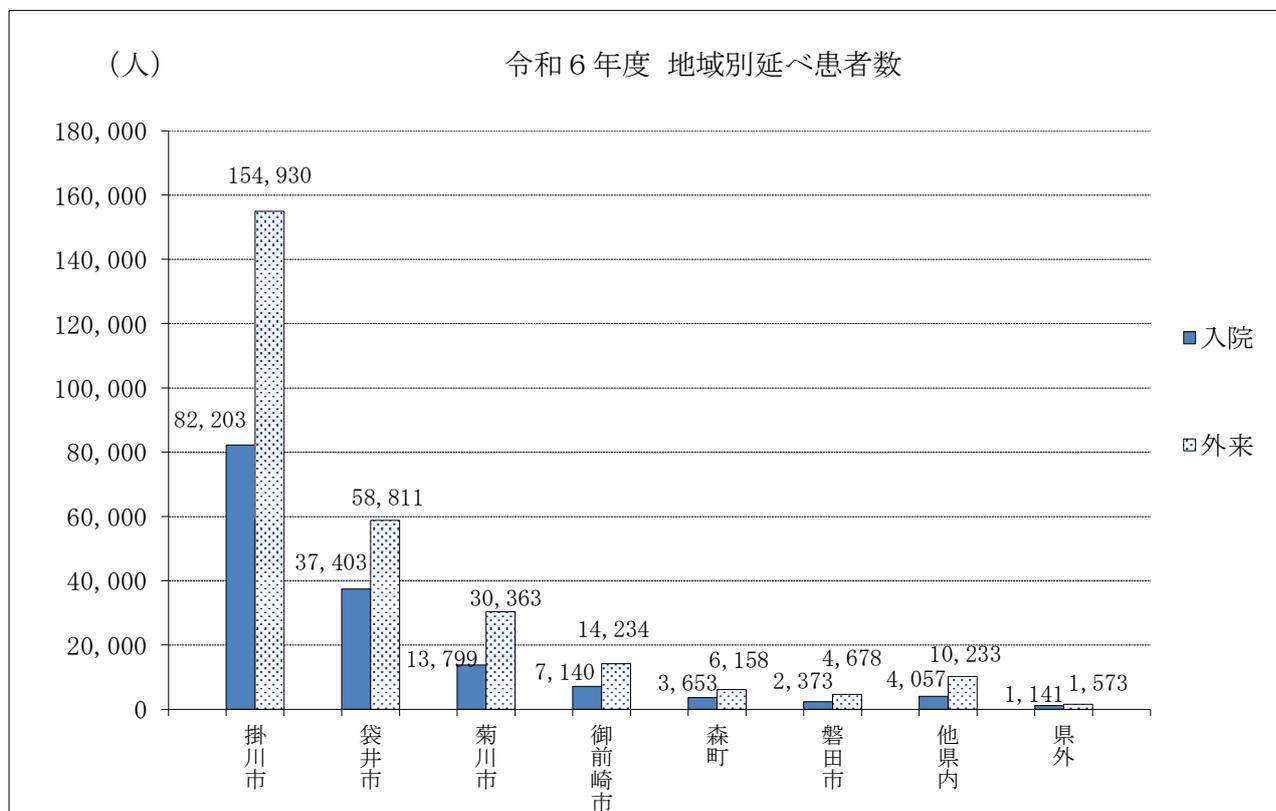
(単位：人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和6年度	82,203	37,403	13,799	7,140	3,653	2,373	4,057	1,141	151,769
令和5年度	75,480	35,806	12,719	7,802	3,209	2,316	4,049	1,147	142,528
増 減	6,723	1,597	1,080	△662	444	57	8	△6	9,241
伸び率	8.9	4.5	8.5	△8.5	13.8	2.5	0.2	△0.5	6.5

外 来

(単位：人)

	掛川市	袋井市	菊川市	御前崎市	森町	磐田市	他県内	県外	計
令和6年度	154,930	58,811	30,363	14,234	6,158	4,678	10,233	1,573	280,980
令和5年度	153,240	59,462	31,428	14,268	6,003	4,677	9,977	1,459	280,514
増 減	1,690	△651	△1,065	△34	155	1	256	114	466
伸び率	1.1	△1.1	△3.4	△0.2	2.6	0.0	2.6	7.8	0.2



(3) 建設改良の執行状況（消費税含む）

ア 施設改良費	予算額	1億2,210万6千円
	決算額	9,221万9千円

〔主な施設改良費〕

・病院整備1期工事実施設計業務	6,930万円
・RC-1ターボ式冷凍機分解整備工事	1,210万円
・情報システムサーバー室空調機更新工事	575万9千円
・RA-2吸収式冷凍機分解整備工事	506万円

イ 資産購入費	予算額	10億2,807万3千円
	決算額	7億6,017万7千円

〔主な有形固定資産〕

器械備品

・MRI一式	2億3,729万2千円
・血管撮影装置（腹部用）	1億1,770万円
・透析装置	4,851万円
・大動脈バルーンパンピング装置	2,420万円
・自動精算機	1,799万9千円
・令和6年度職員用Wi-Fi導入業務委託	1,694万円
・自動ジェット式超音波洗浄装置	1,650万円

## 2 予算の執行状況（消費税含む）

### (1) 収益的収入及び支出（第3条関係）

#### ア 収益的収入の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	増 減 額
	当 初	現 額			
第1款 病院事業収益	19,949,780	19,939,832	19,940,506	100.0	674
第1項 医業収益	18,200,420	18,200,420	18,135,866	99.6	△64,554
第1目 入院収益	11,739,312	11,739,312	11,637,923	99.1	△101,389
第2目 外来収益	5,169,825	5,169,825	5,198,423	100.6	28,598
第3目 その他医業収益	913,554	913,554	874,468	95.7	△39,086
第4目 他会計負担金	377,729	377,729	425,052	112.5	47,323
第2項 医業外収益	1,749,359	1,736,124	1,791,102	103.2	54,978
第3項 特別利益	1	3,288	13,538	411.7	10,250

(注)

- 1 病院事業収益は、予算現額199億3,983万2千円に対し、決算額は、67万4千円増の199億4,050万6千円で、執行率は、100.0%となった。
- 2 医業収益は、予算現額182億42万円に対し、入院収益が1億138万9千円の減、外来収益が2,859万8千円の増、他会計負担金が4,732万3千円の増で、総額で6,455万4千円の減となった。
- 3 医業外収益は、予算現額17億3,612万4千円に対し、決算額は、5,497万8千円増の17億9,110万2千円であった。
- 4 特別利益の主なものは、過年度損益修正益等である。

#### イ 収益的支出の執行状況

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	不 用 額
	当 初	現 額			
第1款 病院事業費用	20,375,486	20,754,246	20,513,796	98.8	240,450
第1項 医業費用	19,507,357	19,879,306	19,703,747	99.1	175,559
第2項 医業外費用	821,714	828,525	797,435	96.2	31,090
第3項 特別損失	41,415	41,415	12,613	30.5	28,802
第4項 予備費	5,000	5,000	0	0	5,000

(注)

- 1 病院事業費用は、予算現額207億5,424万6千円に対し、決算額は、205億1,379万6千円で、2億4,045万円の不用額が生じ、執行率は、98.8%となった。
- 2 特別損失の内容は、過年度損益修正損である。
- 3 不用額の主なものは、次のとおりである。

(医業費用)

- ・経費 1億56万9千円
- ・給与費 3,578万9千円

(医業外費用)

- ・雑損失 2,775万7千円

(2) 資本的収入及び支出 (第4条関係)

ア 資本的収入の執行状況

(単位：千円、%)

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	増 減 額
	当 初	現 額			
第1款 資本的収入	2,570,271	1,307,878	1,143,308	87.4	△164,570
第1項 企業債	1,959,000	682,000	527,300	77.3	△154,700
第2項 負担金	600,000	600,000	600,000	100.0	0
第3項 補助金	3,001	17,039	7,171	42.1	△9,868
第4項 貸付資金返還金	8,268	8,837	8,837	100.0	0
第5項 寄附金	1	1	0	0	△1
第6項 固定資産売却代金	1	1	0	0	△1

(注)

- 1 資本的収入は、予算現額13億787万8千円に対し、決算額は、1億6,457万円減の11億4,330万8千円で、執行率は、87.4%となった。
- 2 企業債は、予算現額6億8,200万円に対し、決算額は、1億5,470万円減の5億2,730万円であった。
- 3 負担金は、予算現額6億円に対し、決算額も同額の6億円であった。

イ 資本的支出の執行状況

(単位：千円、%)

区 分	予 算 額		決 算 額	執 行 率	翌年度繰越額	不 用 額
	当 初	現 額				
第1款 資本的支出	2,285,323	2,200,308	1,888,355	85.8	117,669	194,284
第1項 建設改良費	1,235,194	1,150,179	852,396	74.1	117,669	180,114
第2項 企業債償還金	1,045,089	1,045,089	1,034,189	99.0	0	10,900
第3項 投資	5,040	5,040	1,770	35.1	0	3,270

(注)

- 1 資本的支出は、予算現額22億30万8千円に対し、決算額は、18億8,835万5千円となった。1億1,766万9千円を翌年度に繰り越し、不用額は1億9,428万4千円となり、執行率は、85.8%となった。
- 2 建設改良費のうち、施設改良費の主なものは、病院整備1期工事実施設計業務、冷凍機分解整備工事、情報システムサーバー室空調機更新工事で、資産購入費の主なものは、MRI一式、血管撮影装置（腹部用）、透析装置であった。
- 3 投資の支出内容は、看護学生修学資金貸付金である。

ウ 資本的収支の補填状況

資本的収入が資本的支出に不足する額7億4,504万7千円は、次の資金で補填されている。

- ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 383万7千円
- ・過年度分損益勘定留保資金 7億4,121万円

(3) 企業債の発行と償還状況（第6条関係）

（単位：千円、％）

区 分	前年度末残高	本年度借入額	本年度借入利率	本年度償還額	本年度末残高
企 業 債	13,427,390	527,300	政府資金 2.000 市中銀行 0.260	1,034,189	12,920,501

（注）本年度は、5億2,730万円を借り入れ、10億3,418万9千円を償還し、未償還残高は129億2,050万1千円となった。借入限度額は、施設改良事業 2億2,400万円、医療機器等整備事業 4億5,800万円で、借入利率は、年5.0%以内と定められており、いずれも範囲内であった。

(4) 一時借入金（第7条関係）

一時借入金の限度額は15億円であるが、本年度は一時借入金は発生していない。

(5) 議会の議決を要する経費の流用（第9条関係）

職員給与費及び交際費は、議会の議決を経なければ流用することのできない経費であるが、本年度の流用はなかった。

(6) たな卸資産（第10条関係）

たな卸資産の購入限度額は52億4,151万1千円であるが、購入額は48億7,809万4千円であり、限度額の範囲内であった。

（内訳）

- ・薬品 27億9,651万9千円
- ・診療材料 20億8,157万4千円

### 3 経営成績の状況（消費税除く）

#### (1) 経営収支の状況

(単位：千円、%)

区 分		令和6年度		令和5年度		増減額	伸び率	
		金額	構成比	金額	構成比			
経常 収 支	経 常 収 益	医業収益 (1)	18,056,570	91.0	17,036,121	90.4	1,020,449	6.0
		入院収益	11,637,295	58.7	10,856,358	57.6	780,937	7.2
		外来収益	5,194,105	26.2	5,056,498	26.8	137,606	2.7
		その他医業収益	800,119	4.0	741,831	3.9	58,288	7.9
		他会計負担金 (a)	425,052	2.1	381,434	2.0	43,618	11.4
	益	医業外収益 (2)	1,782,506	9.0	1,807,676	9.6	△25,170	△1.4
		補助金	75,429	0.4	259,375	1.4	△183,946	△70.9
		負担金交付金	701,058	3.5	676,365	3.6	24,693	3.7
		長期前受金戻入	467,794	2.4	440,115	2.3	27,679	6.3
	計 (A)		19,839,077	100.0	18,843,797	100.0	995,279	5.3
	経 常 費 用	医業費用 (3)	19,411,524	95.0	18,163,775	94.9	1,247,750	6.9
		給与費	10,680,171	52.3	9,940,182	51.9	739,989	7.4
		材料費	4,579,342	22.4	4,351,291	22.7	228,051	5.2
		経費	2,846,620	13.9	2,554,391	13.3	292,229	11.4
減価償却費		1,201,446	5.9	1,213,057	6.3	△11,611	△1.0	
医業外費用 (4)		1,025,837	5.0	984,446	5.1	41,392	4.2	
支払利息及び 企業債取扱諸費		190,077	0.9	198,319	1.0	△8,241	△4.2	
雑損失	728,958	3.6	676,735	3.5	52,222	7.7		
計 (B)		20,437,362	100.0	19,148,220	100.0	1,289,141	6.7	
特別 収 支	特別利益 (5)	13,498	-	11,833	-	1,664	14.1	
	特別損失 (6)	12,613	-	12,657	-	△44	△0.3	
医業損益 (1)-(3) = (C)		△1,354,954	-	△1,127,653	-	△227,301	-	
修正医業損益 {(1)-(a)}-(3)		△1,780,006	-	△1,509,087	-	△270,919	-	
経常損益 (A)-(B) = (D)		△598,285	-	△304,423	-	△293,862	-	
当年度純損益 (D)+(5)-(6) = (E)		△597,400	-	△305,247	-	△292,154	-	
前年度繰越利益剰余金 (F)		4,696,182	-	5,001,429	-	△305,247	-	
当年度未処分利益剰余金 (E)+(F)		4,098,782	-	4,696,182	-	△597,400	-	
総収支比率 (A)+(5)/(B)+(6)		97.1		98.4		△1.3		
医業収支比率 (1)/(3)		93.0		93.8		△0.8		
修正医業収支比率 {(1)-(a)}/(3)		90.8		91.7		△0.9		

(注)

- 1 医業収益は、前年度比10億2,044万9千円増の180億5,657万円となった。医業費用は、前年度比12億4,775万円増の194億1,152万4千円となった。
- 2 医業損益は、前年度比2億2,730万1千円悪化し、13億5,495万4千円の損失となった。
- 3 経常損益は、前年度比2億9,386万2千円悪化し、5億9,828万5千円の損失となった。主な要因は、物価や人件費の高騰により、医業費用が増加したことである。
- 4 経常損益に特別利益を加え、特別損失を差し引いた当年度純損益は、5億9,740万円の損失となった。
- 5 当年度純損益に前年度繰越利益剰余金を加えた当年度未処分利益剰余金は、40億9,878万2千円となった。
- 6 医療業務活動の能率効果を測定する医業収支比率は、前年度比0.8ポイント減の93.0%となった。
- 7 医業収支比率から他会計負担金を除いた修正医業収支比率は、前年度比0.9ポイント減の90.8%となった。

## (参考資料)

## 経常収支と繰入金決算額の推移

(単位：千円、%)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度 比較増減
経常収益	18,611,201	22,519,492	20,243,354	18,843,797	19,839,077	995,279
うち医業収益 ①	14,584,258	16,017,025	16,298,937	17,036,121	18,056,570	1,020,449
経常費用	17,378,088	18,233,532	19,163,761	19,148,220	20,437,362	1,289,141
うち医業費用 ②	16,491,106	17,298,366	18,191,412	18,163,775	19,411,524	1,247,750
医業損益 ①－②	△1,906,848	△1,281,342	△1,892,475	△1,127,653	△1,354,954	△227,301
経常損益	1,233,113	4,285,960	1,079,593	△304,423	△598,285	△293,862

両市からの繰入金（3条）	1,029,620	1,039,679	1,061,576	1,057,799	1,126,110	68,311
繰入金を除く経常損益	203,493	3,246,281	18,017	△1,362,222	△1,724,395	△362,173
繰入金/経常収益（%）	5.5	4.6	5.2	5.6	5.7	0.1

## 両市からの繰入金決算額の推移

(単位：千円)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度 比較増減	
両市からの繰入金	1,726,110	1,726,110	1,726,110	1,726,110	1,726,110	0	
内	収益的収入 （3条）	1,029,620	1,039,679	1,061,576	1,057,799	1,126,110	68,311
	掛川市	604,447	610,521	622,450	618,595	660,787	42,192
	袋井市	425,173	429,158	439,126	439,204	465,323	26,119
訳	資本的収入 （4条）	696,490	686,431	664,534	668,311	600,000	△68,311
	掛川市	417,115	410,630	397,155	398,229	357,501	△40,728
	袋井市	279,375	275,801	267,379	270,082	242,499	△27,583

(注) 次の経費は、地方公営企業法等により地方公共団体が負担することができるかとされている。

- ・その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費  
  (例) 救急医療の確保、保健衛生行政事務に要する経費 など
- ・病院事業の性質上、能率的な経営を行っても、なおその経営に伴う収入のみをもって充てることが、客観的に困難であると認められる経費  
  (例) 病院の建設改良に要する経費、高度医療の経費 など

(2) 医業収益の状況

ア 患者の1人・1日当たりの診療収入（診療単価）

入院

算式	令和6年度		令和5年度		比較増減
入院収益(千円)	11,637,295	76,678円	10,856,358	76,170円	508円
年延入院患者数(人)	151,769		142,528		

外来

算式	令和6年度		令和5年度		比較増減
外来収益(千円)	5,194,105	18,486円	5,056,498	18,026円	460円
年延外来患者数(人)	280,980		280,514		

(注) 診療単価は、入院が前年度比508円の増、外来が前年度比460円の増となった。

イ 医師及び看護師の1人・1日当たりの診療収入（診療単価）

医師

算式	令和6年度		令和5年度		比較増減	
入院	入院収益(千円)	11,637,295	281,536円	10,856,358	276,800円	4,736円
	年延医師数(人)	41,335		39,221		
外来	外来収益(千円)	5,194,105	188,678円	5,056,498	194,145円	△5,467円
	年延医師数(人)	27,529		26,045		
入院+外来		470,214円		470,945円		△731円

(注) 入院、外来を合計した医師1人当たりの診療単価は、前年度比731円の減となった。

看護師

算式	令和6年度		令和5年度		比較増減	
入院	入院収益(千円)	11,637,295	55,893円	10,856,358	53,221円	2,672円
	年延看護師数(人)	208,208		203,985		
外来	外来収益(千円)	5,194,105	37,468円	5,056,498	37,332円	136円
	年延看護師数(人)	138,627		135,446		
入院+外来		93,361円		90,553円		2,808円

(注) 入院、外来を合計した看護師1人当たりの診療単価は、前年度比2,808円の増となった。

ウ 職員1人当たりの医業収益（年間）

算式	令和6年度		令和5年度		比較増減
医業収益(千円)	18,056,570	18,444千円	17,036,121	18,066千円	378千円
損益勘定職員数(人)	979		943		

(注)

- 1 職員数には、特別職である企業長を含む。
- 2 職員1人当たりの医業収益は、前年度比37万8千円の増となった。

エ 入院外来収益内訳表

(単位：千円、%)

区 分	令和6年度		令和5年度		増減額	伸び率	
	金 額	構成比	金 額	構成比			
入 院	入 院 料	5,408,323	46.5	4,991,083	46.0	417,240	8.4
	処置・手術	3,055,279	26.3	3,008,855	27.7	46,425	1.5
	検 査	610,785	5.2	582,114	5.4	28,670	4.9
	注 射	492,453	4.2	450,466	4.1	41,988	9.3
	放 射 線	289,262	2.5	268,729	2.5	20,533	7.6
	給 食	250,785	2.2	230,734	2.1	20,051	8.7
	投 薬	110,217	0.9	120,045	1.1	△9,828	△8.2
	そ の 他	1,420,190	12.2	1,204,332	11.1	215,858	17.9
	計	11,637,295	100.0	10,856,358	100.0	780,937	7.2
外 来	注 射	1,664,728	32.1	1,567,477	31.0	97,251	6.2
	検 査	1,019,125	19.6	995,620	19.7	23,505	2.4
	放 射 線	818,671	15.8	786,813	15.6	31,858	4.0
	処置・手術	531,820	10.2	531,544	10.5	275	0.1
	再 診 料	160,232	3.1	157,138	3.1	3,094	2.0
	初 診 料	86,963	1.7	82,934	1.6	4,029	4.9
	投 薬	64,218	1.2	78,110	1.5	△13,892	△17.8
	そ の 他	848,348	16.3	856,862	16.9	△8,515	△1.0
計	5,194,105	100.0	5,056,498	100.0	137,606	2.7	
入院・外来 計	16,831,399	-	15,912,856	-	918,543	5.8	

(注)

- 1 入院収益は、入院患者数の増加や診療報酬のプラス改定に伴う診療単価の増等により、前年度比7億8,093万7千円(7.2%)増の116億3,729万5千円となった。
- 2 外来収益は、がん患者に対する化学療法の増加等により、前年度比1億3,760万6千円(2.7%)増の51億9,410万5千円となった。

オ その他医業収益の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和6年度	令和5年度	増減額	伸び率
医療相談収益	463,642	446,769	16,873	3.8
公衆衛生活動収益	178,212	173,664	4,549	2.6
室料差額収益	85,161	38,505	46,655	121.2
受託検査施設利用収益	2,677	1,887	790	41.9
その他医業収益	70,427	81,006	△10,580	△13.1
合 計	800,119	741,831	58,288	7.9

(注) その他医業収益の主なものは、次のとおりである。

- ・医療相談収益
  - ・人間ドック（日帰り 13,952件、1泊 2件） 4億4,442万9千円
  - ・脳ドック（264件） 766万3千円
  - ・PETがん検診（47件） 376万円
- ・公衆衛生活動収益
  - ・一般健康診断 5,273万4千円
  - ・妊産婦健診 2,722万4千円
  - ・予防接種 1,824万円
- ・その他医業収益
  - ・文書料 4,019万7千円
  - ・新生児介補料 736万円
  - ・乳幼児医療等申請事務手数料 205万2千円

### (3) 医業費用の状況

#### ア 給与費の状況

(単位：千円、%)

区 分	令和6年度	令和5年度	増 減	伸び率
医 業 収 益 ①	18,056,570	17,036,121	1,020,449	6.0
医 業 費 用 ②	19,411,524	18,163,775	1,247,750	6.9
給 与 費 ③	10,680,171	9,940,182	739,989	7.4
うち退職給付費	509,470	475,737	33,733	7.1
対医業収益比 (③÷①)	59.1	58.3	0.8	-
対医業費用比 (③÷②)	55.0	54.7	0.3	-

(注)

- 1 対医業収益比は、前年度から0.8ポイント上がり、59.1%となった。
- 2 給与費が前年度から7.4%増加した要因は、職員数の増加や人事院勧告に基づく給与改定等による。

#### (7) 職員数の状況 (各年度3月31日現在)

(単位：人)

	医師	医療 技術員	看護師	事務部門	技能労務 部門	計	会計年度 任用職員	合計
令和6年度	112	212	560	70	25	979	287	1,266
令和5年度	106	194	548	69	26	943	273	1,216
増 減	6	18	12	1	△1	36	14	50

(注) 職員数は、医師6人、医療技術員18人、看護師12人、事務職員1人が増員となり、全体では50人の増員となった。

#### (イ) 医師の推移 (年間平均在職者数)

(単位：人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比較 増減
医師年間平均在職者数	101.2	103.3	109.3	107.2	113.3	6.1

(注) 医師の年間平均在職者数は、前年度から6.1人増加し、113.3人となった。

## イ 材料費の状況

(単位：千円、%)

	令和6年度		令和5年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
材料費	4,579,342	100.0	4,351,291	100.0	228,051
薬品費	2,634,932	57.5	2,503,198	57.5	131,734
診療材料費	1,905,722	41.6	1,805,630	41.5	100,092
医療消耗備品費	33,324	0.7	36,842	0.8	△3,518
給食材料費	5,364	0.1	5,621	0.1	△256

(注) 材料費は、前年度比2億2,805万1千円増の45億7,934万2千円となった。主な増加要因は、高額な薬剤を使用する患者の増加による薬品費の増、物価高騰による診療材料の値上がり等である。

## ウ 経費の状況

(単位：千円、%)

	令和6年度		令和5年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
経費	2,846,620	100.0	2,554,391	100.0	292,229
委託料	1,703,228	59.8	1,508,277	59.0	194,951
賃借料	369,099	13.0	351,372	13.8	17,727
光熱水費	246,858	8.7	226,699	8.9	20,159
負担金	94,003	3.3	87,858	3.4	6,145
その他	433,432	15.2	380,184	14.9	53,248

(注)

- 1 経費は、前年度比2億9,222万9千円増の28億4,662万円となった。主な増加要因は、人件費高騰による委託料の増等である。
- 2 主な委託業務は、次のとおりである。
  - ・ 医事業務 3億3,600万円
  - ・ 医療機器保守業務 3億787万4千円
  - ・ 給食業務 2億2,592万7千円
  - ・ 施設設備保守業務 2億2,527万1千円

#### 4 財政の状態

(単位：千円、%)

区 分		令和6年度		令和5年度		増減額	伸び率
		金額	構成比	金額	構成比		
資産	固定資産	13,895,838	55.3	14,292,065	55.8	△396,227	△2.8
	流動資産	11,245,958	44.7	11,306,299	44.2	△60,341	△0.5
資産合計		25,141,796	100.0	25,598,364	100.0	△456,568	△1.8
負債	固定負債	15,298,804	60.9	15,361,606	60.0	△62,802	△0.4
	流動負債	3,279,844	13.0	2,953,769	11.5	326,075	11.0
	繰延収益	965,735	3.8	1,113,489	4.3	△147,755	△13.3
	計	19,544,382	77.7	19,428,864	75.9	115,518	0.6
資本	資本金	1,302,075	5.2	1,302,075	5.1	0	0
	剰余金	4,295,339	17.1	4,867,425	19.0	△572,086	△11.8
	資本剰余金	196,557	0.8	171,243	0.7	25,314	14.8
	利益剰余金	4,098,782	16.3	4,696,182	18.3	△597,400	△12.7
	計	5,597,413	22.3	6,169,500	24.1	△572,086	△9.3
負債資本合計		25,141,796	100.0	25,598,364	100.0	△456,568	△1.8

##### (1) 資産の状態

資産合計は、前年度比4億5,656万8千円減の251億4,179万6千円となった。

##### 【主な増減項目】

###### ・有形固定資産

建物 80億2,976万9千円 (5億2,012万3千円減)

器械備品 21億1,443万2千円 (1億5,962万5千円増)

###### ・無形固定資産

ソフトウェア 9,766万3千円 (1億3,463万8千円減)

###### ・流動資産

現金預金 72億1,858万円 (12億1,120万8千円減)

未収金 28億6,727万円 (3億1,597万8千円増)

前払金 8億6,465万1千円 (8億3,590万5千円増)

##### 貯蔵品回転率

(単位：円、回)

算 式	令和6年度		令和5年度		比 較
期首貯蔵＋当年度購入－期末貯蔵	4,590,387,673	16.5	4,365,925,145	15.1	1.4
(期首貯蔵＋期末貯蔵) ÷ 2	278,075,402		288,259,989		

(注) 貯蔵品回転率は、前年度比1.4回増の16.5回となった。

## (2) 負債の状態

負債合計は、前年度比1億1,551万8千円増の195億4,438万2千円となった。

### 【主な増減項目】

#### ・固定負債

企業債	120億8,698万5千円	(3億621万6千円減)
引当金	32億1,181万8千円	(2億4,341万4千円増)

#### ・流動負債

未払金	18億4,972万7千円	(4億8,412万4千円増)
-----	--------------	----------------

## (3) 資本の状態

資本金は、前年度と同額の13億207万5千円となった。

資本剰余金は、前年度比2,531万4千円増の1億9,655万7千円となった。

利益剰余金は、前年度繰越利益剰余金46億9,618万2千円から当年度純損失5億9,740万円を差し引き、40億9,878万2千円となった。

資本金と剰余金を合わせた資本合計は、前年度比5億7,208万6千円減の55億9,741万3千円となった。

## 5 未処分利益剰余金の処理

当年度未処分利益剰余金40億9,878万2千円については、全額を繰越利益剰余金として次年度に繰り越した。

## 第6 キャッシュ・フロー計算書

### 1 業務活動によるキャッシュ・フロー

(単位：千円)

項 目	令和6年度	令和5年度	増 減
1 当年度純損益	△597,400	△305,247	△292,154
2 減価償却費	1,201,446	1,213,057	△11,611
3 固定資産除却費	14,695	10,269	4,425
4 固定資産売却益	△440	0	△440
5 長期貸付金貸倒引当金の増減額	△1,497	△1,470	△27
6 長期前払消費税勘定償却	25,684	21,960	3,724
7 長期前受金戻入額	△475,461	△445,981	△29,480
8 資本費繰入収益	△255,040	△220,880	△34,160
9 受取利息及び受取配当金	△17,459	△6,872	△10,588
10 償却原価法による受取利息	△1,720	△909	△811
11 支払利息	190,077	198,319	△8,241
12 未収金の増減額	△321,206	497,085	△818,291
13 たな卸資産の増減額	△762	21,131	△21,892
14 前払費用の増減額	1,777	3,703	△1,926
15 前払金の増減額	△3,249	△7,319	4,070
16 退職給付引当金の増減額	243,414	402,407	△158,994
17 賞与引当金の増減額	36,264	37,557	△1,293
18 法定福利費引当金の増減額	6,360	9,105	△2,744
19 未収金貸倒引当金の増減額	9,451	△3,145	12,596
20 未払金の増減額	347,559	△222,533	570,092
小 計	402,494	1,200,238	△797,744
1 利息及び配当金の受取額	17,459	6,872	10,588
2 利息の支払額	△190,077	△198,319	8,241
業務活動によるキャッシュ・フロー	229,876	1,008,791	△778,915

### 2 投資活動によるキャッシュ・フロー

1 有形固定資産の取得による支出	△1,513,404	△680,754	△832,650
2 有形固定資産の売却による収入	440	0	440
3 無形固定資産の取得による支出	△31,247	△42,259	11,012
4 投資有価証券の取得による支出	0	△1,468,755	1,468,755
5 補助金等による収入	3,698	26,133	△22,435
6 繰入金による収入（他会計負担金）	574,686	643,372	△68,686
7 災害による保険金収入	0	112,566	△112,566
8 長期貸付金の貸付による支出	△1,770	△2,010	240
9 長期貸付金の返還による収入	8,087	8,712	△625
投資活動によるキャッシュ・フロー	△959,509	△1,402,994	443,485

### 3 財務活動によるキャッシュ・フロー

1 建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	527,300	445,500	81,800
2 建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△1,034,189	△997,848	△36,341
3 繰入金による収入（他会計負担金）	25,314	24,939	375
財務活動によるキャッシュ・フロー	△481,575	△527,409	45,834

資金増減額	△1,211,208	△921,612	△289,596
-------	------------	----------	----------

資金期首残高	8,429,788	9,351,400	△921,612
--------	-----------	-----------	----------

資金期末残高	7,218,580	8,429,788	△1,211,208
--------	-----------	-----------	------------

キャッシュ・フロー計算書は、病院事業会計における純損益から、資産の増減を反映させ、減価償却費など、非資金項目を調整した「間接法」で作成し、実質資金収支（キャッシュ・フロー）を示したものである。

なお、本年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、2億2,987万6千円プラス、投資活動によるキャッシュ・フローは、9億5,950万9千円マイナス、財務活動によるキャッシュ・フローは、4億8,157万5千円マイナスとなった。

以上により、資金期末残高は、72億1,858万円となった。

第7 参考資料

附表 1

最近3カ年の入院・外来 診療科別患者数、構成比及びすう勢比率

(単位：人、%)

区 分		入 院				外 来			
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度 差・伸び率	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度 差・伸び率
内 科	患者数	15,871	16,319	9,996	△6,323	46,500	43,501	41,025	△2,476
	構成比	11.2	11.4	6.6		16.6	15.5	14.6	
	すう勢比率	100.0	102.8	63.0	△38.7	100.0	93.6	88.2	△5.7
脳神経内科	患者数	7,620	11,238	11,980	742	11,642	11,131	11,771	640
	構成比	5.4	7.9	7.9		4.2	4.0	4.2	
	すう勢比率	100.0	147.5	157.2	6.6	100.0	95.6	101.1	5.7
呼吸器内科	患者数	12,573	12,055	14,467	2,412	11,349	11,080	11,860	780
	構成比	8.9	8.5	9.5		4.0	3.9	4.2	
	すう勢比率	100.0	95.9	115.1	20.0	100.0	97.6	104.5	7.0
消化器内科	患者数	8,862	8,174	12,323	4,149	12,951	13,748	14,927	1,179
	構成比	6.3	5.7	8.1		4.6	4.9	5.3	
	すう勢比率	100.0	92.2	139.1	50.8	100.0	106.2	115.3	8.6
循環器内科	患者数	18,314	17,907	19,843	1,936	14,922	15,754	15,454	△300
	構成比	13.0	12.6	13.1		5.3	5.6	5.5	
	すう勢比率	100.0	97.8	108.3	10.8	100.0	105.6	103.6	△1.9
外 科	患者数	14,589	14,247	15,168	921	18,866	18,571	19,335	764
	構成比	10.3	10.0	10.0		6.7	6.6	6.9	
	すう勢比率	100.0	97.7	104.0	6.5	100.0	98.4	102.5	4.1
小児外科	患者数	0	0	0	0	153	161	200	39
	構成比	0	0	0		0.1	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	105.2	130.7	24.2
呼吸器外科	患者数	0	0	1	1	228	334	296	△38
	構成比	0	0	0.0		0.1	0.1	0.1	
	すう勢比率	100.0	-	-	皆増	100.0	146.5	129.8	△11.4
整形外科	患者数	21,243	19,027	19,128	101	20,380	19,732	20,328	596
	構成比	15.0	13.3	12.6		7.3	7.0	7.2	
	すう勢比率	100.0	89.6	90.0	0.5	100.0	96.8	99.7	3.0
リウマチ科	患者数	0	0	0	0	391	361	438	77
	構成比	0	0	0		0.1	0.1	0.2	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	92.3	112.0	21.3
脳神経外科	患者数	11,798	11,993	14,911	2,918	4,657	4,455	4,651	196
	構成比	8.3	8.4	9.8		1.7	1.6	1.7	
	すう勢比率	100.0	101.7	126.4	24.3	100.0	95.7	99.9	4.4
小 児 科	患者数	4,527	4,072	5,066	994	15,627	14,276	13,648	△628
	構成比	3.2	2.9	3.3		5.6	5.1	4.9	
	すう勢比率	100.0	89.9	111.9	24.4	100.0	91.4	87.3	△4.4
産婦人科	患者数	7,181	6,892	6,376	△516	14,855	13,895	13,126	△769
	構成比	5.1	4.8	4.2		5.3	5.0	4.7	
	すう勢比率	100.0	96.0	88.8	△7.5	100.0	93.5	88.4	△5.5
泌尿器科	患者数	6,263	6,965	8,307	1,342	12,315	12,574	13,137	563
	構成比	4.4	4.9	5.5		4.4	4.5	4.7	
	すう勢比率	100.0	111.2	132.6	19.3	100.0	102.1	106.7	4.5
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	患者数	2,474	3,182	3,629	447	16,724	17,246	16,279	△967
	構成比	1.8	2.2	2.4		6.0	6.1	5.8	
	すう勢比率	100.0	128.6	146.7	14.0	100.0	103.1	97.3	△5.6
眼 科	患者数	3,621	3,196	3,117	△79	20,003	18,691	18,742	51
	構成比	2.6	2.2	2.1		7.1	6.7	6.7	
	すう勢比率	100.0	88.3	86.1	△2.5	100.0	93.4	93.7	0.3
耳 鼻 いんこう科	患者数	3,578	3,838	4,034	196	13,044	13,620	13,516	△104
	構成比	2.5	2.7	2.7		4.7	4.9	4.8	
	すう勢比率	100.0	107.3	112.7	5.1	100.0	104.4	103.6	△0.8
放 射 線 診 断 科	患者数	10	5	0	△5	6,873	6,759	6,888	129
	構成比	0.0	0.0	0		2.5	2.4	2.5	
	すう勢比率	100.0	50.0	-	皆減	100.0	98.3	100.2	1.9
麻 酔 科	患者数	0	0	0	0	4,728	5,278	4,663	△615
	構成比	0	0	0		1.7	1.9	1.7	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	111.6	98.6	△11.7
リハビリ テーション科	患者数	293	650	616	△34	9,853	13,765	14,608	843
	構成比	0.2	0.5	0.4		3.5	4.9	5.2	
	すう勢比率	100.0	221.8	210.2	△5.2	100.0	139.7	148.3	6.1
歯 科 口腔外科	患者数	1,957	2,274	2,245	△29	12,704	13,209	12,845	△364
	構成比	1.4	1.6	1.5		4.5	4.7	4.6	
	すう勢比率	100.0	116.2	114.7	△1.3	100.0	104.0	101.1	△2.8
精 神 科	患者数	0	0	0	0	2	1	0	△1
	構成比	0	0	0		0.0	0.0	0	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	50.0	-	皆減
病理診断科	患者数	0	0	0	0	0	0	7	7
	構成比	0	0	0		0	0	0.0	
	すう勢比率	100.0	-	-	-	100.0	-	-	皆増
救 急 科	患者数	533	494	562	68	11,627	12,372	13,236	864
	構成比	0.4	0.3	0.4		4.1	4.4	4.7	
	すう勢比率	100.0	92.7	105.4	13.8	100.0	106.4	113.8	7.0
計	患者数	141,307	142,528	151,769	9,241	280,394	280,514	280,980	466
	構成比	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	
	すう勢比率	100.0	100.9	107.4	6.5	100.0	100.0	100.2	0.2

(注) すう勢比率は、令和4年度を基準年度とした。

附表 2

最近3カ年の診療科別収入の構成比と患者1人当たり収入金額（消費税抜き）

区 分		診療収入（単位：千円、%）							
		令和4年度		令和5年度		令和6年度		対前年度	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	比較増減	伸び率
内 科	入院	833,422		932,034		571,534		△360,500	△38.7
	外来	943,989		891,216		880,756		△10,461	△1.2
	計	1,777,411	11.7	1,823,250	11.5	1,452,289	8.6	△370,961	△20.3
脳神経内科	入院	456,882		685,004		773,313		88,310	12.9
	外来	297,869		330,962		381,991		51,028	15.4
	計	754,751	5.0	1,015,966	6.4	1,155,304	6.9	139,338	13.7
呼吸器内科	入院	717,430		770,259		908,811		138,552	18.0
	外来	345,717		280,639		304,046		23,407	8.3
	計	1,063,147	7.0	1,050,898	6.6	1,212,857	7.2	161,958	15.4
消化器内科	入院	537,362		496,864		740,479		243,614	49.0
	外来	426,681		411,445		406,136		△5,309	△1.3
	計	964,043	6.3	908,309	5.7	1,146,615	6.8	238,305	26.2
循環器内科	入院	1,716,157		1,882,435		1,925,309		42,873	2.3
	外来	233,418		239,377		238,441		△936	△0.4
	計	1,949,575	12.8	2,121,812	13.3	2,163,749	12.9	41,937	2.0
外 科	入院	1,174,066		1,139,148		1,217,585		78,437	6.9
	外来	546,789		597,128		684,828		87,700	14.7
	計	1,720,856	11.3	1,736,276	10.9	1,902,413	11.3	166,137	9.6
小児外科	入院	0		0		0		0	-
	外来	474		571		964		393	68.8
	計	474	0.0	571	0.0	964	0.0	393	68.8
呼吸器外科	入院	0		0		1,089		1,089	皆増
	外来	2,229		3,424		3,933		510	14.9
	計	2,229	0.0	3,424	0.0	5,022	0.0	1,599	46.7
整形外科	入院	1,494,536		1,478,810		1,504,868		26,058	1.8
	外来	167,148		162,843		174,607		11,764	7.2
	計	1,661,684	10.9	1,641,654	10.3	1,679,475	10.0	37,821	2.3
リウマチ科	入院	0		0		0		0	-
	外来	10,962		10,650		12,651		2,002	18.8
	計	10,962	0.1	10,650	0.1	12,651	0.1	2,002	18.8
脳神経外科	入院	934,670		929,249		1,242,304		313,055	33.7
	外来	58,907		54,886		54,294		△592	△1.1
	計	993,577	6.5	984,135	6.2	1,296,598	7.7	312,463	31.8
小 児 科	入院	298,040		289,739		360,219		70,480	24.3
	外来	171,957		153,972		150,068		△3,904	△2.5
	計	469,998	3.1	443,711	2.8	510,287	3.0	66,576	15.0
産婦人科	入院	645,182		599,193		550,382		△48,811	△8.1
	外来	133,365		152,630		133,554		△19,075	△12.5
	計	778,548	5.1	751,822	4.7	683,936	4.1	△67,886	△9.0
泌尿器科	入院	482,048		531,377		612,024		80,647	15.2
	外来	350,676		461,093		422,687		△38,406	△8.3
	計	832,723	5.5	992,469	6.2	1,034,711	6.1	42,242	4.3
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	入院	146,743		192,268		216,804		24,536	12.8
	外来	203,461		232,103		211,500		△20,603	△8.9
	計	350,204	2.3	424,371	2.7	428,304	2.5	3,934	0.9
眼 科	入院	406,046		396,274		388,889		△7,385	△1.9
	外来	203,448		185,083		199,369		14,286	7.7
	計	609,494	4.0	581,357	3.7	588,257	3.5	6,901	1.2
耳 鼻 いんこう科	入院	229,287		259,287		317,586		58,300	22.5
	外来	128,574		162,401		150,675		△11,726	△7.2
	計	357,860	2.4	421,688	2.6	468,262	2.8	46,574	11.0
放 射 線 診 断 科	入院	2,015		1,057		0		△1,057	皆減
	外来	193,371		192,469		198,157		5,688	3.0
	計	195,386	1.3	193,527	1.2	198,157	1.2	4,630	2.4
麻 酔 科	入院	△2		0		0		0	-
	外来	9,030		12,684		7,918		△4,766	△37.6
	計	9,028	0.1	12,684	0.1	7,918	0.0	△4,766	△37.6
リハビリ テーション科	入院	15,715		34,412		38,255		3,842	11.2
	外来	72,828		115,750		136,725		20,975	18.1
	計	88,543	0.6	150,162	0.9	174,980	1.0	24,818	16.5
歯 科 口腔外科	入院	141,302		172,443		194,828		22,385	13.0
	外来	91,521		94,442		99,066		4,624	4.9
	計	232,823	1.5	266,885	1.7	293,894	1.7	27,009	10.1
精 神 科	入院	0		0		0		0	-
	外来	9		9		0		△9	皆減
	計	9	0.0	9	0.0	0	0	△9	皆減
病理診断科	入院	0		0		0		0	-
	外来	0		0		36		36	皆増
	計	0	0	0	0	36	0.0	36	皆増
救 急 科	入院	72,505		66,506		73,017		6,512	9.8
	外来	294,626		310,722		341,703		30,981	10.0
	計	367,131	2.4	377,228	2.4	414,720	2.5	37,492	9.9
計	入院	10,303,406	67.8	10,856,358	68.2	11,637,295	69.1	780,937	7.2
	外来	4,887,051	32.2	5,056,498	31.8	5,194,105	30.9	137,606	2.7
	計	15,190,457	100.0	15,912,856	100.0	16,831,399	100.0	918,543	5.8

区 分		患者1人当たり収入（単位：円、％）				
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年度	
					比較増減	伸び率
内 科	入院	52,512	57,113	57,176	63	0.1
	外来	20,301	20,487	21,469	982	4.8
	計	28,497	30,479	28,465	△2,014	△6.6
脳神経内科	入院	59,958	60,954	64,550	3,596	5.9
	外来	25,586	29,733	32,452	2,719	9.1
	計	39,183	45,418	48,642	3,224	7.1
呼吸器内科	入院	57,061	63,895	62,820	△1,075	△1.7
	外来	30,462	25,328	25,636	308	1.2
	計	44,442	45,425	46,069	644	1.4
消化器内科	入院	60,637	60,786	60,089	△697	△1.1
	外来	32,946	29,928	27,208	△2,720	△9.1
	計	44,196	41,434	42,078	644	1.6
循環器内科	入院	93,707	105,123	97,027	△8,096	△7.7
	外来	15,643	15,195	15,429	234	1.5
	計	58,659	63,035	61,301	△1,734	△2.8
外 科	入院	80,476	79,957	80,273	316	0.4
	外来	28,983	32,154	35,419	3,265	10.2
	計	51,438	52,906	55,138	2,232	4.2
小児外科	入院	0	0	0	0	-
	外来	3,098	3,547	4,821	1,274	35.9
	計	3,098	3,547	4,821	1,274	35.9
呼吸器外科	入院	0	0	1,088,820	1,088,820	皆増
	外来	9,778	10,251	13,289	3,038	29.6
	計	9,778	10,251	16,910	6,659	65.0
整形外科	入院	70,354	77,722	78,674	952	1.2
	外来	8,202	8,253	8,589	336	4.1
	計	39,922	42,355	42,566	211	0.5
リウマチ科	入院	0	0	0	0	-
	外来	28,037	29,500	28,884	△616	△2.1
	計	28,037	29,500	28,884	△616	△2.1
脳神経外科	入院	79,223	77,483	83,315	5,832	7.5
	外来	12,649	12,320	11,674	△646	△5.2
	計	60,381	59,833	66,281	6,448	10.8
小 児 科	入院	65,836	71,154	71,105	△49	△0.1
	外来	11,004	10,785	10,996	211	2.0
	計	23,320	24,183	27,268	3,085	12.8
産婦人科	入院	89,846	86,940	86,321	△619	△0.7
	外来	8,978	10,984	10,175	△809	△7.4
	計	35,331	36,168	35,070	△1,098	△3.0
泌尿器科	入院	76,968	76,292	73,676	△2,616	△3.4
	外来	28,475	36,670	32,175	△4,495	△12.3
	計	44,823	50,794	48,252	△2,542	△5.0
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	入院	59,314	60,424	59,742	△682	△1.1
	外来	12,166	13,458	12,992	△466	△3.5
	計	18,242	20,774	21,514	740	3.6
眼 科	入院	112,136	123,991	124,764	773	0.6
	外来	10,171	9,902	10,638	736	7.4
	計	25,800	26,562	26,911	349	1.3
耳 鼻 いんこう科	入院	64,082	67,558	78,727	11,169	16.5
	外来	9,857	11,924	11,148	△776	△6.5
	計	21,529	24,154	26,682	2,528	10.5
放 射 線 診 断 科	入院	201,521	211,452	0	△211,452	皆減
	外来	28,135	28,476	28,768	292	1.0
	計	28,387	28,611	28,768	157	0.5
麻 酔 科	入院	0	0	0	0	-
	外来	1,910	2,403	1,698	△705	△29.3
	計	1,910	2,403	1,698	△705	△29.3
リハビリ テーション科	入院	53,635	52,942	62,102	9,160	17.3
	外来	7,391	8,409	9,360	951	11.3
	計	8,727	10,417	11,494	1,077	10.3
歯 科 口腔外科	入院	72,203	75,832	86,783	10,951	14.4
	外来	7,204	7,150	7,712	562	7.9
	計	15,880	17,237	19,476	2,239	13.0
精 神 科	入院	0	0	0	0	-
	外来	4,250	8,500	0	△8,500	皆減
	計	4,250	8,500	0	△8,500	皆減
病理診断科	入院	0	0	0	0	-
	外来	0	0	5,077	5,077	皆増
	計	0	0	5,077	5,077	皆増
救 急 科	入院	136,032	134,627	129,924	△4,703	△3.5
	外来	25,340	25,115	25,816	701	2.8
	計	30,192	29,320	30,057	737	2.5
計	入院	72,915	76,170	76,678	508	0.7
	外来	17,429	18,026	18,486	460	2.6
	計	36,022	37,615	38,894	1,279	3.4

(注) 計は、入院及び外来収益を年延患者数で除したものである。

附表 3  
財務分析表

分析項目	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	算式	説明
固定資産構成比	%	50.9	55.8	55.3	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	固定資産と資産総額との割合を表すもので、この比率の高いことは公営企業の特徴であるが、低いほうが望ましい。
固定負債構成比	%	59.8	60.0	60.9	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	固定負債と総資本との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
自己資本構成比	%	24.8	24.1	22.3	$\frac{\text{資本金+剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	自己資本と総資本との割合を表すもので、この比率の高いほうが望ましい。
固定資産対長期資本比率	%	48.7	54.1	55.2	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金+固定負債}} \times 100$	固定資産と長期資本（資本金と固定負債との合計）との割合で、資本固定化の程度を表すものであって100%以下であることが望ましい。
固定比率	%	204.9	231.7	248.3	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金+剰余金}} \times 100$	固定資産と自己資本との割合で、資本固定化の程度を表すものであって、100%以下であることが望ましい。
流動比率	%	431.0	382.8	342.9	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	流動資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、200%以上であることが望ましい。
当座比率	%	419.5	371.8	307.5	$\frac{\text{現金預金+未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	当座資産と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、100%以上であることが望ましい。
現金預金比率	%	315.8	285.4	220.1	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	現金・預金と流動負債との割合で、流動負債の支払能力の程度を表す比率であって、20%以上であることが望ましい。
自己資本回転率	回	2.8	2.7	3.1	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首資本金、剰余金} + \text{期末資本金、剰余金}) \div 2}$	自己資本の利用度を表すもので、原則として回転率の高いことが必要である。
固定資産回転率	回	1.2	1.2	1.3	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2}$	固定資産の利用度を表すもので、収益性の観点からは回転率の高いほうがよいが、健全性の上からいえば回転率の高いのはあまりよくない。
減価償却率	%	10.2	10.2	10.5	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	固定資産の償却率を表すものである。
流動資産回転率	回	1.4	1.4	1.6	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \div 2}$	流動資産の使用、利用度を表すものである。
未収金回転率	回	6.5	6.7	6.9	$\frac{\text{医業収益}}{(\text{期首医業未収金} + \text{期末医業未収金}) \div 2}$	未収金の回収度（回収率）を表すもので、高いほど回転が早く、未収金が未回収のまま残留する期間が短いことを意味する。
総資本利益率	%	4.2	△1.2	△2.4	$\frac{\text{当年度純利益}}{(\text{期首負債資本} + \text{期末負債資本}) \div 2} \times 100$	当期の純利益（純損失）と総資本との割合で、企業全体（総資本）の収益性を表すものである。
総収益対総費用比率	%	105.5	98.4	97.1	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	当期の総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
医業収益対医業費用比率	%	89.6	93.8	93.0	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益と医業費用との割合で、営業活動の能率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
修正医業収支比率	%	87.5	91.7	90.8	$\frac{\text{医業収益} - \text{他会計負担金}}{\text{医業費用}} \times 100$	当期の医業収益から他会計負担金を除いた額と医業費用との割合で、営業活動の実質的な収益率を表すものであって、この比率の高いほうが望ましい。
利子負担率	%	1.4	1.4	1.4	$\frac{\text{支払利息}}{(\text{期首企業債、一時借入金} + \text{期末企業債、一時借入金}) \div 2} \times 100$	支払利息と負債との割合を表すもので、この比率の低いほうが望ましい。
企業債償還元金対減価償却額比率	%	83.9	82.3	86.1	$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{減価償却費}} \times 100$	企業債償還元金とその償還財源に充当すべき減価償却費との割合を表すもので、この比率の低いことが望ましい。